

Best Album

第二次成長期ハアハア

Keny
The
Skateboard
Angel

最初に言っておきたい。「このバンドを黙殺せよ!」

Keny The Skateboard Angel(以下KTSA)ぜんぜん意味が分からない。中身を聴いてみたがはっきり言って何が面白いのか分からない。理解に苦しむ。超Z級レベルの楽曲、聴いているこっちが赤面するほどに下手くそなヴォーカル、失笑するしかない。

私は子供の頃、毎日下駄箱の上履きを隠されたり父がドランプマンだということをばらされ給食のパンにポケモン消しゴムが入っていたりして大変だった。このアルバムを聴いていてそんなことを思い出した。彼らは度々その頃リトルグレイトにアブダクションされ、だ☆ばんぷとして強制労働をさせられていたらしい。ご存じの通り火星人は常にえなりかずきを好み、隙あらばいいとも青年隊に入隊しようとしているが、その頃はまだマシだったと言える。

最初に彼が作ったバンドは東洋思想を元にした総合格闘技だった。座右の銘は「つっぱりミネラルウォーターお前の身体の中ししのびこんでやる」メンバーはギターヴォーカルのKeny、ベースのKeny、ドラムスのKeny。全員同じ人物だがそのときは誰も気づかなかったという。そもそもバンドですらなかったのだが持ち前の強運で大手のサブポッパーと契約。カート・コバーンはこう語る「そうだな、オレ達も彼らのタケノコ族ぶりには感銘を受けたよ。おかげで今でもヒロユキ・オキタだけはリスペクトしてるんだ。オマエニマリリア」この頃のシアトルには既にチューブの中にエアカーが走っている。難点はそれが1/144のプラモだったということだろう。

空前のチャイルドブームに乗っていたケニーはマイケル・ジャクソンにレイプされる。結局それがトラウマとなってドラッグに溺れていく。ロックスターにはありがちすぎる展開である。だがここで大きな疑問が残る。彼はいつからロックスターだったのだろうか。

それからの数年間は表舞台から姿を消す。そのときの最後の言葉は「日本の農家に必要なもの、それはミステリーサークルだ」悟りきった表情だったという。

再び彼が現れるのは21世紀になってからである。ある日、筆者の元に全身黒づくめのあからさまにビジュアル系バンドのファンと分かる男がやって来て言った。「老人がなぜガオーク形態で歩くのか、その理由を知りたいか」私はその言葉に強く頷いていた。気が付くと私は手術台の上に寝かされていた。これからさきと海開きの季節なのだ気づいて突然ブレイクダンスがしたくなったのを覚えている。その頃既に私はたまごっちのバチもんネコちゃんを手に入れていたので、それにエサをやらなくてはいけないのが気がかりだった。その後、井上トコが現れるまで私は謎の頭痛に悩まされた。後に単なる脳腫瘍だとい

とが分かって安心した。

もう一度目を覚ましたときは自宅の暖炉の前だった。既にかはあらかた焼失していたが、ロッキングチェアに揺られながらゆっくりと辺りを見回すと、彼がいた。おもむきにマイクを握って彼はこう叫んだ「ハドソンハドソン!」ケニーは私に新たなるバンドの結成を厳かに告げた。そしてこのアルバムを私に手渡したのだった。

全曲紹介をする前に。俗に言うファミコンロックであるケニーは英語と日本語を操れるのでアルバムは日本語と英語の曲が混在している。と言っても英語ははっきり言って意味すらないものである。タイトルで見分けてほしい。それでは紹介に移ろう。

1.maggot blain(for J.mascis ver)

J.mascisはケニーのリスペクトするギタリストである。この曲はFUNKADELICの71年発表3作目Maggot blainに収められていた同名の曲をJがコンピレーションアルバム「Ball-hog or tugboat?」でカバーしたものをさらにケニーがカバーしたもの。原曲からはかなり隔たっているが雰囲気はかなり近いと思われる。が、さっき聴き比べたらまったく違っていた。

2.home(Music & Words / Keny with Eiji)

比較的初期の曲。曲自体はケニーの火星での強制労働仲間であるEijiが作っている。コーラス部で高音をハモッているのは彼である。ケニーの歌唱力のヘボさ、ギターセンスの欠如を示す素晴らしい曲である。っていうか頭痛い。

3.猟銃自殺(Music & Words / Keny)

タイトル通り、グランジかぶれのクソロッカーどもが恐らく一度はテーマにしたであろうカート・コバーンに関する曲。というかライブでの演奏を一度見たことがあるのだがOSAKAのベイサイドジェニーで彼はステージで何を思ったか寝転がり、ゴミムシのように倒しながらシャウトしていた。そんなふうには演奏する曲である。

4.a fly(Music & Words / Keny)

タイトルは蠅。イントロが最悪。何も考えていないことが明白の構成。実は「LOVE 涙色」を意識したらしい。

5.無気力(Music & Words / Keny)

ベースなしでギターを二本使っているのでステレオで聞くとちょっとおもしろい、かも知れない。ひたすらごちゃごちゃと呟くケニーの言葉が青臭くて、今聴くとかなりサウイ。

6.turn (インストゥルメンタル)

ちょっとだけフレーズっぽいフレーズを弾いてみたけどなんか失敗している感ありありなインスト。中途半端に雰囲気がある。

7.クラゲ(Music & Words / Keny)

「J-POP系の曲でも作ってみようとしてなんか妙にハマッてしまった曲」らしい。ドラムのパターンはちょっと面白い。相変わらず歌詞はサウイ。

8.視覚系(Music & Words / Keny)

「ビジュアル系でもやってみるかと思って作った曲」実はケニーは過去にビジュアル系バンドをやっていたこともあるらしい。そのせいかやけに自然に聞こえる。冗談で作ったとは思えない。

9.線路の夏(Music & Words / Keny)

聴いていると辛くなってくるような無理のある曲。ケニーには自分を知って欲しい。こういう曲はもっと爽やかな人が唄うものである。例の如く滅茶苦茶である。

10.sand(インストゥルメンタル)

フルシアンテっぽいギターだがフルシアンテなどケニーはもともと知らなかった。後で知った。とにかくケニーはギターを沢山重ねれば良いと思っている部分がある。

11.over kill(Music & Words / Keny)

あきらかにメロコアを意識しているが後半のソロはけっこうマトモかもしれない。この頃、ケニーはファックユーしかまともな英語を知らないというウワサが流れた。

12.under the world(Music & Words / Keny)

後期の曲。ギターのフレーズ自体は悪くないが曲の構成がグランジ風。フルセットが上手く出し切れていない。いいかげん自分で唄うのはやめたほうがいいのかも知れないと思いついてほしい。

13.time(Music & Words/Keny)

唯一のアコースティックバラード。なんとなくベタだがギターは綺麗にはまっている。フリマで手に入れた2000円のギターを使用。盗品以外のケニーの楽器は珍しい。

14.morning(インストゥルメンタル)

ギターを重ねすぎて後半がたがたになっている。やはりギターを重ねたいらしい。耳障りである。

以上、14曲だが、待つて欲しい、初回限定版ボーナストラックが2曲、日本版にだけ収録されることになった。これがスゴイ内容なのである。もうやめてくれ。

Bonus track

15.悪魔の黙示録サザエさん洗脳計画(Music / Keny Words / HAL Tanaka)

幻の狂気の作品。ケニーの名を世間に響かせた、デビューシングルとも言えるまったく恥さらしな名曲。ケニーはこの頃まだMTRを手に入れておらず、自宅のラジカセ2台を使用してピンポン録音したという。ギターもかなりテキトウだ。歌詞はムーの文通コーナーで知り合った仲間が書いた政府の陰謀告発文書が元になっている。ケニーはまだ日本語が不自由だったために文法的におかしい部分がいくつも聞き取れる。文書自体が根本的におかしいのだが。

16.ドラえもん毒電波(Music & Words / Keny)

サザエさんのB面とも言えるこの曲。現在の音響系を先取りしていたと言える。ジムオルークもこれを聴いて感激し、思わず首を掻ききって自殺しようとしたらしい。単調で長いので途中で退屈する。唐突に終わる。

以上。殆どケニー作詞作曲演奏である。16曲入りで500円という破格の安値は素晴らしい。ケニーを追い続けている私にとって今回のアルバム発売は衝撃的だった。っていうかケニーで誰だよ。

最後にケニーからのマジなメッセージをお伝えしよう。

「新バンドのメンバー募集!パートは自由!初心者可!年齢制限ナシ!生まれたての胎児から死にかけのジジイまで!男女グレイ問わず!ヤンキーオタクハゲデブも誰でも来い!君もケニーと一緒に熱いロックに魂を焦がしてみないか!このアルバムを聴いて感動したら是非連絡してくれ!下半身がなくてもスケボーにライドオン!ジオング魂!ヨロシク!」



▲ケニー自画像

(ライナー:阿佐ヶ谷陽一)